令和８年度　１学年 ＯＢ医師によるキャリア講話

2026.9.5（土）

１年生の医師志望者を対象として、「ＯＢ医師によるキャリア講話」を実施し、21 名の生徒が参加しました。講師には、本校の卒業生でもあり、茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンターで腎臓内科医としてご勤務されている秋山稜介先生をお迎えしました。

初めに、先生の高校時代の生活や学習についてお話しいただき、成績の状況も交えながら得意科目や不得意科目への対処の方向性についても教えていただきました。勉強がきついときには、ルイ・パスツールの「人の２倍、３倍の時間をかけて努力すれば、必ず追いつき、追い越せる！」という言葉を支えに頑張ったのだそうです。また、「面接は自己表現の場」という言葉も印象に残りました。

医学生時代は、勉強も実習も、旅行やアルバイトなども毎日が全部充実していたそうです。「高校での勉強は大学に入るための『手段としての勉強』だが、大学の勉強はそのまま将来の仕事に生きる、血肉になる『目的としての勉強』である。」という言葉で、生徒たちを激励しました。医療は刻一刻と進歩するので、医師となった今でも勉強はし続けないといけない、「勉強の不安は、勉強でしか解決しない。」とも話されました。

医学生時代の学長であった高久史麿先生の「ドクターコールにすっと立ち上がれる医者であれ」の言葉を今も胸に抱き、生徒にも「Nobless Oblige」を忘れずに医師になってほしいと結ばれました。

生徒は、卒業生である先生に親近感を感じながら、高校時代の生活や医学生の姿、そして医師としての在り方などを考える良い機会となりました。大変お忙しい中、後輩たちに語ってくれた先生に心からお礼申し上げます。